

人間ドック内視鏡受検者における *Helicobacter pylori* 感染診断報告書の有用性

あ だち きょう いち み しろ とも こ
足 立 経 一 三 代 知 子
た なか し の
田 中 志 乃

キーワード：ヘリコバクターピロリ，人間ドック，除菌治療，内視鏡

要 旨

平成25年度より人間ドックでの全内視鏡受検者に内視鏡的 *Helicobacter pylori* (*H.pylori*) 陽性胃炎の有無を書面で通知した。平成25年度には3729例中除菌治療後が407例 (10.9%) であった。内視鏡的に *H.pylori* 感染陽性と診断されたのは1258例 (33.7%) で、このうち833例が平成26年度にも受診しており、1年間で263例 (31.6%) が除菌治療を行っていた。平成25年度のドック当日の *H.pylori* 感染検査にて陽性であった345例中185例 (53.6%) が次年度受診までに除菌治療を行っていたのに対して、感染検査未施行の445例では75例 (16.9%) のみ除菌治療を行っていた。内視鏡的に *H.pylori* 感染陽性と診断される例ではドック受診時に *H.pylori* 感染検査を勧めることが、*H.pylori* 除菌者の増加に寄与すると考えられた。

はじめに

Helicobacter pylori (*H.pylori*) 感染が胃がんの最大の原因であり、さらに *H.pylori* 除菌治療に胃がん発生抑制効果があることから¹⁻³⁾、平成25年2月より *H.pylori* 感染者全例に除菌治療が保険適応となった。そのため、上部消化管検査を行った場合には、*H.pylori* 感染に関する情報を検査受検者に的確に通知し、その後の除菌治療へ

と誘導する必要性が生じている。当センターでは、平成25年度より人間ドックでの上部消化管内視鏡検査ならびにX線検査の全受検者において、画像診断にて *H.pylori* 感染診断を行い、その診断情報を *H.pylori* 感染診断報告書を用いて本人に提供している。そこで、平成25年度の当センター人間ドック内視鏡受検者における内視鏡的 *H.pylori* 感染診断状況について報告するとともに、平成25年度に内視鏡的に *H.pylori* 感染陽性と診断され、平成26年度に再度当センターを受診した症例を対象として、*H.pylori* 除菌治療の有無について検討し、*H.pylori* 感染診断報告書の

Kyoichi ADACHI et al.

島根県環境保健公社・総合健診センター

連絡先：〒690-0012 松江市古志原1丁目4-6

島根県環境保健公社・総合健診センター